1970
1月号
No.194
編集兼発行
鮫川村
総務課
塙町 佐藤印刷所

広報

さめがわ

12月25日現在の人口と世帯
人口 6.941(－15)
男 3.493(－6)
女 3.448(－9)
世帯数1.230(－1)



今年は〝成年〟……明けまして おめでとうございます

一九七〇年の黎明

激動の年、六九年を過去にして、いま新なる一九七〇年の黎明は来た。
山よ、川よ、ふるえる樹氷よ！
わが祖先を育て
われとわが子孫を生み
且つ育てた大地よ！
暗い夜のとばりをおし開き
輝く雲に、凛烈の大気に
暁の太陽は
音もなく上ってくる。
山なみの彼方を渡る小鳥の群にも
新しい年の躍動はある。
寒気に肩をすぼめた木々の梢に
若い芽が春の陽を待っている。
栄光あれ！一九七〇年

新年特集

これからの農業はどうあるべきか？
鮫川村の農業を診断
日本の頭脳はこうみる……

基盤整備

東京農工大学教授　石橋豊

村内耕地の大部分が土地改良、特に圃場整備を必要とするが、この点非常に立ちおくれている。

本村のような湿田でも地形なりに調整しながら工夫すれば、傾斜度はそれ程でもないから、そうむづかしくない。

水源には恵まれているから排水が大事で、周辺からの湧水に注意を要する。圃場整備では、用排水は分離のたて前である。

渡瀬地区の圃場整備は時宜に適したものである。これをモデルにし、きつかけにして立派に仕上げてもらいたい。

戸倉、岩ノ草でも区画整理をとり入れれば、より多い効果を望むことができた。しかし交換分合だけでももちろん効果はある。

圃場には道路を十分入れなければならない。圃場整備は水田だけでなく畑地にも必要である。

そこに機械を導入し、土地の利用率を高め、余剰労力を他に利用すべきである。

国有林の問題もふまえて、新しい農地の造成を考え、農業経営を拡めていくことが必要だ。

農家の方々の積極的な意欲より高い関心を望みたい。それを引出すためにも意識調査の必要がある。

畜産

農林省福島種畜牧場長　金子黎一

本村は山の資源が豊かで、開発の条件はよい。これからの開発に当つては、林業との協調を図ることが必要で、「混牧林」というものも考えるべきだと思う。

草地を造成する場合、距離の遠い所に大規模の公共草地を造り、個々の農家の周りに裏山、里山開発の牧野を造つて、手近に飼料を採るようにすることが大切だが、個別農家と大牧野との連りをよくしなければ大牧場が生きてこない。

大牧場は育成を主とするものであるが、乾乳牛、障害牛乳牛の雄仔牛の一定月令以内のものなども委託放牧すべきである。

酪農が盛んになると雄仔牛の生産も多くなるので、農協等が集団保育をして技術を揃えることが望ましい。

青生野和牛協業組合を見たが、放牧共用林は名目のみのようであるから改善すべきだろう。このような施設ではできるだけ省力して、簡素な施設とし、生産コストを下げなくてはならない。

良質の越冬飼料を作つて、周年放牧とし、牧牛で自然分娩とするのがよい。よい乾草を作ることも大切だが、グラスサイレージを作ることを考えるべきだ。バキユームサイロをいくつも作つて簡単に大量の越冬飼料を作るのがよい

次に造成の方法では、蹄耕法をとり入れるべきだ。機械開墾の三分の一で済むし、草の維持年限が長い。大きい畜産というのは、一、二頭舎飼の考え方は通用しないものだ中堅となる畜産家に研修をさせ、また展示農家を設定するような方途を講ずる必要があろう。

養蚕

農林省蚕糸試験場栽桑部長　農学博士　間和夫

一般的にみると基礎条件はよくない。土壌も恵まれていないし、反当収量は非常に低い。

養蚕農家の経営規模は二〇a以内で小さい。しかし稚蚕共同飼育所を設置して全村で利用していることや協業体が五ケ所あり、二十二*ha*の集団桑園など先進的な面も見られる。

また個別農家では一*ha*の桑園から総収繭量一、五〇〇Kの高い水準の養蚕家もあり、今後明るい見通しを得られる

これから桑園を造成する場合は、集団で造ること、表土の深さ、酸度、隣酸の吸収係数、物理性などによつて開発方式を考えるべきで、あまり深く削ることは考えなければならない。

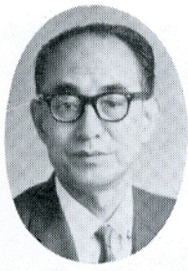
（三頁へ）



村の農業を診断するコンサルタント団の先生がた。

一九七〇年代への出発

村長　石田卯子八



一九七〇年代に入る年のはじめに当り皆様のうえに幸のいよいよ多からんことを祈ります。

昨年は激動の年というのにふさわしくかつてなかつた師走選挙を最後に幕を閉じましたが、明ければここにあかるく静かな昭和四五年の新年を迎えることができました。

わが村にとつて昨年は異常気象、夏季低温に災され農家の皆様は大変な苦労をされました。米価据置きに加えての収量減で、農家経済は大きな打撃をうけたのであります。

農業基本法の強調した自立農家は減り、農外収入への依存度は更に高まる傾向にあります。

農業の曲り角とは既にいいふるされた言葉になりましたが、これからが真の大転換の時期といわなければなりません。

米の余剰を原発点とする農政の再編成、総合農政への出発、この大きな課題は、七〇年代にそのまま持越し、急速な解決を迫られているわけであります。

国の安全保障の問題、大学紛争の問題、国民医療の問題など重要課題が山積する中で日本の新しい農政の向うべき方向を定めることは、私達にとつて最も関心の深いことであります。

さて七〇年代の夜明けに、先づ素朴な願いはこの地域の気象的な恵みが豊かであれかしと望むことであります。

二年続いた高冷地帯低温の苦い経験は、科学技術の検討と、高冷地営農の経営形態の改善に十分活かされなければならないと思います。

また新しい農政の天下りを慢然と待つだけであつてはならず、自ら求めて新しい世代に生きる営農のビジョンを画く努力が肝要でありましようではないでしようか。

それとともに要望すべきものは強くこれを要望し、特に生産物の価格支持政策は、生産政策と不可分の関連において強化されなければならないと思います。

このたび村は農業振興地域整備促進事業の指定をうけることになり、新しい農政への胎動は既に初つたともいえるわけです。

文教施策では統合中学校の建築があり、社会福祉関係でも多くの課題をかかえていますが、林業構造改善事業が最終年度に入り、第二次農業構造改善もコンサルタント団の答申を得れば、構想を結める段階になり、村にとつて七〇年代はまさに農政で明けてゆく感があります。

皆様の一層の御協力御指導をおねがいいたします。

村の歩み（33）

一九七〇年代に入る年のはじめに当り皆様のうえに幸のいよいよ多からんことを祈ります。

昨年は激動の年というのにふさわしくかつてなかつた師走選挙を最後に幕を閉じましたが、明ければここにあかるく静かな昭和四五年の新年を迎えることができました。

わが村にとつて昨年は異常気象、夏季低温に災され農家の皆様は大変な苦労をされました。米価据置きに加えての収量減で、農家経済は大きな打撃をうけたのであります。

農業基本法の強調した自立農家は減り、農外収入への依存度は更に高まる傾向にあります。

農業の曲り角とは既にいいふるされた言葉になりましたが、これからが真の大転換の時期といわなければなりません。

米の余剰を原発点とする農政の再編成、総合農政への出発、この大きな課題は、七〇年代にそのまま持越し、急速な解決を迫られているわけであります。

国の安全保障の問題、大学紛争の問題、国民医療の問題など重要課題が山積する中で日本の新しい農政の向うべき方向を定めることは、私達にとつて最も関心の深いことであります。

わが村は、これまでも米単作ではなく、畜産、養蚕、特用作物に林業を加えた複合経営で進んできた地域です。この伝統的な技術と手腕を巧みに活かしながら、国県の施策を有効にとりこんでゆくべき

桑は一度植付けると、その後の土壌改良が困難であるから植付前にやらなければならない。また必ず農道をつけなければならない。

標高の行い土地は生育期間が短いから枝条が長く伸びない。一つの株から多くの枝を出させることが必要だ。従つて植付本数を多くした方がよい。改良鼠返しなどは枝の数が多い性質をもつている。

植付後一、二年の間にしつかりした株を作ることが必要だ。稚蚕共同飼育は三令までにした方がよく、飼育回数は四回が適当と思う。

たばこ

県煙草耕作組合連合会嘱託
野川　英夫

村内のたばこ産地は、標高が四〇〇m～四五〇m位で、花崗岩系の砂質土であり、山ふところにかこまれた風当りの強くないところであるから田村、石川の産地に連なり、松川葉の適地である。

栽培面積は県内耕作面積の約一〇%に当り、他産地の減反に伴い増反できる可能性が強い。

たばこは利点の反面に労力がかゝる。いかにして労力を省くかが問題である。現在一〇a当り九二人～一〇〇人かかつているようだが、これを五三人～五五人位に省力したい。

そのためには耕作の近代化として、共同育苗、圃場整備による機械の導入、施肥の合理化を図らなければならない。

収獲乾燥に労力の四〇%もかかるので火力乾燥、調理作業センターなどの設置を考える必要がある。

たばこ圃場の基盤整備は非常におくれている。交換分合集団化などで近代化を進めなければならない。省力化した労力を活用して規模拡大にもつていくのがよい。あまり収入に依存度が高いので新しい方法をとり入れることに疑念をもつ保守的なところが見られる。

一般に意欲が低いのでPRにつとめ、下からの盛り上る力を必要とする。

希望ある村づくりを

鮫川村議会議長　芳賀　悟朗



昭和四五年の新春を迎えるにあたりまして、村議会を代表し新年のごあいさつを申し上げます。

本年は戦後二〇余年を経て世界でも驚異的な高度経済成長をなしとげた我国にとつて新しい歩みをしてゆく事が予想される年であります昨年は年末に総選挙があつて、あわただしい年の瀬でしたが、本年は一九七〇年代に入り内外ともに、あらゆる分野において変化が起るであろうと言われています。

ことに国内産業のなかでは農業経営の転換が迫られている現状において、どのような体質改善を進めてゆくかが大きな課題となつてきました。本村のような農山村にあつては不利な条件下にありますがこれを克服し新しい村づくりを進めてゆくことは容易なことではないでしよう。然しむずかしいからとつて放置しておくわけにはゆきません。

村議会といたしましても理事者に協力し困難な仕事ではありますが、明るい豊かな村づくりに邁進する考えですので、村民の皆様方の一層の御支援と御協力をお願いします。

経営

農林省農業技術研究所
経営土地利用部科長
林　健一

本村は土地資源が豊かで実に開発の余地が多い。見たところ半分は草地開発が可能である。湿田も改良すれば裏作ができるし、その可能性が多い。三〇〇〇haを開発すれば粗生産の増は三億に達するだろう。

畜産を中心にし、林野を背影にして、いろんなものをおりまぜ開発していくのがよいと思う。

地域別に開発の可能性を考えると、村の西北の部分は林野が少く、東南の部分が恩恵をうけられるようだ。

村では肉用牛に力を入れているが、仔で村外へ売れば五六万円であるが、肥育して売れば一五万から二〇万以上になる。これを村内でやれば村内所得になつて返つてくる。地域内の分担を考えるべきだ

酪農でも同じことがいえる一方では水田を乾田化し、仔牛の繁殖育成は東南地域で行ない、搾乳は西北地域で行なうという分業的経営を考えてはどうか。

全体的に開発のテンポがゆるい。堅実な型ともいえるがとび抜けてよくなる農家がない周囲を見て少しづつよくなればよいという考え方のようだが、もつと意欲の高い農業を望みたい。ピラミツド形の改善が必要である。

部落単位の相談、もの別の機能集団、同業的な組織のつみ重ねがあつて、その上に全体としての調和を考えていく必要があろう。

村税完納に感謝
—年内に全村完納達成—

納税については、毎年皆様の深いご理解とご協力により、全村完納の成績をおさめておりますことを深く感謝いたします。

昭和四四年度も一二月中に「村税完納運動」を展開しましたところ、皆様の熱心なご協力により前年に引続き年内に「全村完納」の実績をあげることができました。

冷害による水稲の減収、晩霜による桑園の被害など数多くの困難を克服して「継続十三ケ年全村完納」の金字塔をうちたてて頂いた皆様がたに紙上をもつて厚く御礼を申し上げます。

住宅と税金 ①

土地や住宅などを売つた場合

土地や住宅などを売つて得たときの利益を譲渡所得といい、所得税がかかります。

今年は、この譲渡所得の課税が大巾に改正されました。譲渡所得は、これまではほかの所得と総合して税金を計算していましたが、昭和四五年分からは、ほかの所得と切り離して計算する「分離課税」の方法に変わります。

しかし、四四年分については、他の所得と総合して課税する従来の方法と、分離課税の方法とのいずれか有利な方法を選んで申告することができます。

土地建物などを、五年をこえる期間所有していた場合は「長期譲渡所得」となり、五年以下の場合は「短期譲渡所得」となります。

ただし、昭和四四年四月八日までに、すでに三年をこえてもつていた土地や建物を売つた場合にも、長期譲渡所得になります。

譲渡所得の計算は、譲渡代金から、売つた資産の取得費や譲渡に要した費用を差し引きます。

取得費の計算は、譲渡代金の五%とすることになりましたが、実際の取得費の方が五%相当額より高いときは、実際の取得費によることができます。

長期譲渡所得の税金は、この譲渡所得から特別控除一〇〇万円を差し引き、これに税率を掛けて計算します。税率は四六年までに売つた場合は一〇%、四七、四八年は一五%四九、五〇年は二〇%です。

短期譲渡所得の税金は、最低でも四〇%です。

この分離課税は地方税（住民税）にも適用があります。地方税の税率は、四六年までは四%、四七、四八年は五%四九、五〇年は六%です。

（白河税務所）

皆様のご協力を

中野警察官駐在所
鈴木　武

私は、昨年四月五日鮫川村中野警察官駐在所勤務として着任し、鮫川村地区の治安確保の重責に徹力をつくしております。

この間、各関係機関をはじめとし、皆様方に何かと御心配と御迷惑をかけましたこともありましたが、大局的な事故もなく無事に新年を迎えられましたことは、警察に対する御理解ある皆様方の信頼と絶大なる御協力の賜と深く感謝する次第であります。

さて、今年も私の念願とする「犯罪のない住みよい社会」そして明朗な社会を実現することについて真剣にこれに取組み、警察の責務を果そうと全力をあげ、日夜努力する所存であります。しかし警察の力のみでは明るい安定した住みよい社会はできないので是非地域住民の方々による自衛体制の確立強化が絶対必要条件であると考えておるものです。

今年も皆様方の御理解と御協力を得まして、社会悪に対しては強い正義感をもつて臨み、また青少年の不良化に対しては愛の精神を基本とし、交通事故に対しては運転者と歩行者が一体となり、正しい交通ルールを守るよう指導を強化し、もつて住民生活の安定を図りたいと思います。

（青年会長鈴木重隆）

青年会表彰さる

去る一一月一一日矢祭町生活改善センターで第四回東白川公衆衛生大会が開催されました。

この席上鮫川村青年会は環境衛生事業に貢献した功績を認められ表彰の光栄に浴しました。

わが青年会は本年度の活動方針の中に「社会奉仕の精神を常に持とう」をスローガンにかかげております。

この一環として去る九月二一日荒れはてた強滝の景勝地を清掃し、渓流の美を皆さんに楽しんでいただけるようにと会員そろつて川の両岸の雑草雑かん木や川のごみ等を取り除く作業を奉仕しました。

これからもこれを機会に会員としての本分を自覚し、郷土を愛し、そして皆さんから愛される青年会として地域社会のために頑張つて行こうと会員一同張りきつております

グループ紹介 (8)

「えびすこ会」

私共五人のえびすこ会というのは村内あちらこちらのけつたいな漫画のようなグループではあるが、もう二十余年変りなくつゞけている。もちろん役員もない、強いていえば会長は一年交替で廻つている。

終戦の昭和二十年十月二十日、戦争中の思い出や、終戦後のドサクサ状態の中に、自分等の行き方などを話り合うとともに親睦を図ろうという訳で集つたのが発足の動機のようであつた。

その年の会長宅を会場に、毎年収穫後の恵比須講の日に定例会として集まつたため、いつの間にかえびすこ会ということになつたのであるが、一泊して一晩中ゆつくりと語り合つていたので、三回位廻つて十五年位すぎた頃に、つくづく会場になつた母ちやん等の苦労の程も考えられ、それからはその年の会長一任でいろいろな所で会を持つことになつた。

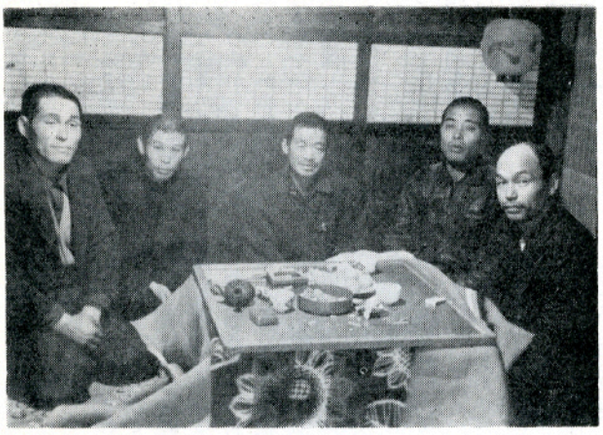
話題もいろいろで、各自の経営から体験談、後継者のこと、お互遠慮のない注意やら反省やら、時には村政、農業団体、国の農政まで論義に花を咲かせることもあるが、お互同志もどんな悪口をたゝかれても怒ることのない、恵比須様のような愉快な集りである。

惑る時はえびすこ呑みの会として、又西山の斉藤君などはえびすこ農見の会として招集し、山や畑を見学させられたこともあつた。

又農業の恩師として石田村長さんのお出でを頂いて語つたこと、国会議事堂に代議士を訪れてガメツク質問したこと、羽田で一緒に飛行機に乗つたこと等思い出も少くない。

目下増産分として、各々米一俵代を昭和四十一年より積み立てゝいるが、思い出を残す計画ということで、来年あたり万国博見物を楽しみに、互に励まし合つて農業に精出している。

（鶯野谷　已三二）



えびすこ会の面々

二月一日に、世界農林業センサスが行われます。村の調査員が各農林業家を訪問しますので御協力下さるようお願い致します。

▼奇特な寄付二件▲

☒赤坂中野字大塩出身で（大楽公民館長の弟さん）北海道札幌国税局に永年勤務されている瀬谷竜さんから「鮫川小学校図書購入に役たたせて下さい。」と次のような短歌二首を添えて、金壱万円を寄附されました。

・年暮れに衣もまといぬ人もあるやがて春待つ福寿草の花。

・なつかしき故郷の川水の音産湯つかいしご恩わすれじ

☒赤坂中野字新宿で理容店を営む湯座伝さんは商工会長で活躍されていますが、このたび環境衛生功労者として、県庁の正庁で表彰された記念として、金五千円を村基本財産に寄付されました。ご篤志に深く感謝いたします。

鮫川史 (16)

新年に題して
鮫川村の今昔

国島義広

原因を知らずして結果を語るべからず。先づ鮫川史を繙くならば、以て鮫川の生い立ちを知る必要性を痛感す。

陸奥白川郡赤坂郷が鮫川村と銘打つまでの過程を探つて見よう。

太古白川郡は高野郡と変り又白川郡に戻り、慶応四年九月八日明治と改元、明治二年二月十二日、福島県、二本松県、白河県の三県を置く。明治四年十一月二日、三県を廃し若松県、二本松県、棚倉県、平県の四県を置く、十万石以上の大名が知事となる故に阿部棚倉藩主正静知事となる。平県は十一月二十九日磐前県と改称す。其の後又四県を廃し明治四年十一月十四日、福島県、二本松県の二県となる。明治十五年一月二十五日、福島県、二本松県の二県が合併して福島県と改まり現在に至る。

明治五年赤坂郷六ケ村合して小八区として区長を置く、区長は石井八郎右ヱ門であり渡瀬は小七区に入る。小七区の区長は阿部の臣で神永景福であつた。

明治九年十一月十日庄屋、名主を廃し用掛と改む。石井八郎右ヱ門が之に当る。北郷小八区全区と、南郷小七区の一部であつた渡瀬村を合併して赤坂郷と呼んだ。北郷小八区とは即ち富田村、東野村、石井草村、中野村、宝木村、戸倉村、塚本村、西野村、石神村、真坂村の十ケ村でありそれに渡瀬村が加わり十一ケ村が後の鮫川村となつたので、県史又は斉須初吉翁編の村誌に七ケ村を以て鮫川村と改まると簡単に書いてあるが、十一ケ村とするのが正しいのではあるまいか。

明治十一年県令第十一号公布により、磐城国白川郡を東、西の白川と分け西に河の字を当て、東に川の字とした。

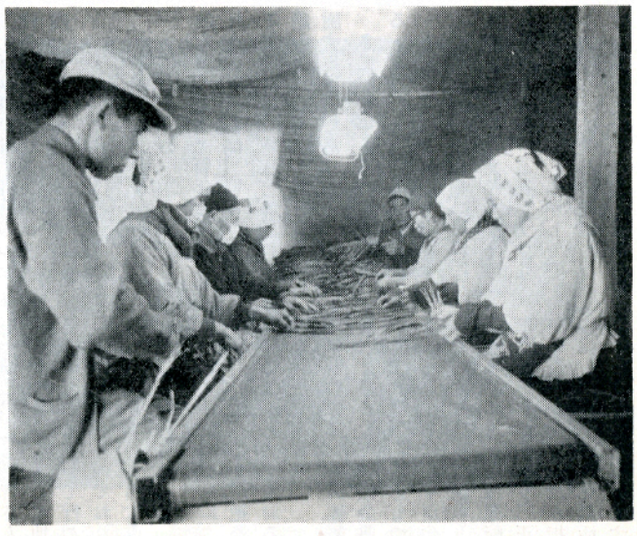
明治十二年一月二十七日郡区改正となり、戸長役場を塚本（現在の高坂正雄氏宅）に置く、石井八郎右ヱ門戸長となる。

明治二十二年三月二十五日市町村制の実施により鮫川村と改まる。七月某日の公選により七月十三日鈴木源之助翁初代の村長となる。

当時東白川郡を一町十二ケ村とす。即ち宮本村、竹貫村、鮫川村、社川村、高野村、近津村、山岡村、常豊村、笹原村、石井村、高城村、豊里村と棚倉町である。

昭和二十八年町村合併促進法が施行さるるや、竹貫村と宮本村を合併して古殿町となり、棚倉町、社川村、高野村近津村及び山岡を合併して棚倉町と改め、常豊村、笹原村高城村の一部と石井村の一部を合して塙町一し、豊里村、石井村、高城村の一部を合併して矢祭町とした。

我が鮫川村だけは明治二十二年三月二十五日の春花時に生れて、今年八十二才の長寿村として栄え他に誇るべき村ある。長しいに弥栄えまさんことを祈りて止まない。



葉たばこ撰別に偉力を発揮する、ベルトコンベヤー

葉たばこ撰別の近代化

中野二区たばこ耕作改良団では、たばこ耕作の省力化のため、このほどたばこ調理器ベルトコンベヤー二基を導入し、今年の葉たばこ調理からこの機械を使用しています。耕作者一二名が二班に別れて共同作業を行いました。

この撰別機は、村の補助を受けて購入したものですが、撰別能力は一日七アール分の葉たばこが撰別でき、それに共同作業で、一戸当り一人の労働力で間に合います。労働力不足で悩んでいる今日、最も合理的且つ効率的な事業と思います。

毎日の作業も、今後の経営や品質の改良、また世間話に花が咲き、共同作業は、能率高く楽しいものでした。

（団長　矢吹　一男）

◉広報さめがわは、今後とも住民のための広報紙にするため、いろいろな紹介欄をできるだけ多く設け多角的な、そして充実した紙面にしてゆきたいと思います。

ご意見や感想文などなんでも結構ですからたくさん投稿して下さい。書式は自由です。

◉宛先　鮫川村役場総務課広報編集係。

（個人的な利害関係を生じたり、他人を中傷するような記事は掲載しません）